

The Mind of Christ: Looking Out for the Interests of Others

キリストの思い：他人の利益に心をとめる

Philippians ピリピ2:1-30 August 31, 2008

2008年8月31日

休暇に入る直前の説教で、私は、洗礼を受けること教会の会員になることの関係のような複雑な問題をどのように解決できるかを識別できるための知恵を生じさせるようなリレーショナルなカルチャーがベツレヘムに与えられることを私が望んでいることにフォーカスをおきました。

知恵：協力と人間関係による達成

知恵とは、利己的な野心、自慢、および強い嫉妬心からの開放、そして心の柔和さによって表されると、コロサイ3:16 および ヤコブ3:13-18 を使って私は主張しました。言い換えれば、知恵は嫉妬と自己本位ではなく、仕える心、そして謙遜と愛の関係の中で上昇します。知恵を得るとは、それだけで孤立しては達成はできません。協力と人間関係のなかで得られる達成なのです。一匹狼は賢明ではありません。知恵は与えられ、発見され、献身した関係の炎のなかで磨かれるのです。

私が、聖書的であると思っている「知恵」の定義があります：知恵とは、神を賞賛し、キリストが高められ、福音的で、人々の生活を助ける方法を、神が私たちに与えてくださった知識を用いて、霊が知覚する能力です。知恵は生活態度に対する聖書の特定の規則を記憶する能力ではありません。知恵が必要なのは、私たちの決断の多くは聖書の中に特定の規則によって明示的に規制されていないからです。

3つの例を見てみましょう。個人的な優先事項、子育て、そして政治に関する意見です。

個人的優先事項：子育て、政治的事柄に関する知恵

みなさんは、分刻みで動いている日々の生活のなかで、どのようにして優先順序を決めますか？ 食べて、働いて、運動して、眠って、本を読んで、娯楽に時間を費やして、人と会話をし、伝道して、祈って... などそれぞれにどのくらいの時間を割り当てればいいのでしょうか。聖書の中にはそれに関しての詳しい規則は書かれていません。

また子育てに関してはどうでしょうか？子育てに関して、日々直面する細かい決断の95%は聖書の中には提示されていないと、私は言い切ります。それでも私たちは決断しなければならないのです。親は子供をどのように育てるべきなのかということに関して、躊躇している余裕はないのです。

また政治に関する決断はどうですか？ 私は単に、あなたがどのように投票するかを言っているの

ではありません。アメリカにおいてではなく、天にあなたの市民権を持っていることに関してどう考えているかをいうことを意味しているのです。あなたのいのちがキリストとともに神の内に隠されているときに(コロサイ3:3)、この地球では外国人および寄留者であるときに(1ペテロ2:11)、それでもこの世の力に服従せねばならず(ローマ12:1)、隣人を愛せとの召しをうけ(マタイ22:39)、また日々の生活を営んでいかねばならず(1テサロニケ4:10-12)、さらにこの地球を治めなければならない(創世記1:28)というのに、あなたは一体どのように日々の生活をこの地球で送っているのでしょうか?どのようにしてこの世界に住みながらこの世的にならずに生活をしていく(ヨハネ17:15)ことができるのでしょうか?これは人知を超えた霊的な知恵の要請です。ベツレヘムがこの分野で成長するのをどのようにして助けることができるのでしょうか?それは私およびこの教会の長老すべてへの神からの召しです。

私たちのリレーショナルカルチャー

よって、今日ふたたび、私たちの教会のリレーショナルカルチャーの問題に戻りたいと思います。私が望んでいるリレーショナルな環境は、私達が個人的な優先順位や家族や私たちの神にある国籍などに関して、神を賞賛し、キリストが高められ、福音的で、他の人々を助けていけるような知恵を、神が喜んで私たちに与えてくださるような環境です。

使徒パウロがピリピ人に宛てて書いた手紙の2章を開いてください。今からみなさんに見せようとしていることは、6月28日に祈りと計画の修養会で教会の指導者たちに、そして6月25日にはデザインリングゴッドのスタッフたちに見せました。また、休暇中にピリピ人への手紙と一緒に読んでいた、妻のノエルと娘のタリサにも見せました。これは過去2ヶ月間で、自分にとって最も切羽詰った祈りの課題でした。それはいまここで話されているリレーショナルカルチャーの真髄と非常に関係の近いものだと私は思います。

それは、4節で最も明白に述べられています。そしてそれは、イエス、パウロ、テモテおよびエパフロデタスの生き様によって表現されています。ついでに表現されているという意味ではありません。私は、パウロが、イエス、自分自身、テモテおよびエパフロデタスを引き出すことにより、故意に4節を表現していると言っているのです。したがって、私たちもそれを行うべきです。まず4節に注目して、次に、それが、ピリピ2章中の4人の人々の生き方を通して現された4つの方法を見てみます。私が祈るのは、次の祈りをあなたの祈りにすることです。「主よ、私の心の奥深くに働きかけてください。自分の利益だけでなく他の人の利益も心にとめることのできる気質と、自己中心による心の束縛からの解放を与えてください。」

他の人の利益に心をとめる

4節を見てください：「各自、自分の利益だけでなく他の人の利益にも心をむけるように。」 この「利益」という単語は原文にはなく、ただ単に訳されるときに入れられた単語です。書かれているのは、「自分の(何か)」そして「他人の(何か)」だけです。つまり、こういう風に言うこともできるのです。自分の経済問題、もしくは自分の財産、あるいは自分の家族、自分の健康、自分の社会的評判、自分の学歴、自分の社会的成功、自分の幸福など、それだけを考え、欲し、

計画し、がんばるな、と。そうではなく、他の人の経済問題、財産、家族、健康、社会的評判、学歴、成功、幸福に関しても心をとめなさい、と読むこともできるのです。

言い換えれば、4節は「あなた自身を愛するように、隣人を愛しなさい。」（マタイ22:39）と言われたイエスの言葉を言い換えているのです。すなわち、他人の幸福をあなたの関心、計画、および仕事のフォーカスにしなさい、ということです。他人を喜ばせることに自分の喜びを見つけてください。テレビを見ているときに、あなたの子どもが「一緒に遊んで」と言ったとします。そのときに、あなたがどんなに疲れているかだけを考えないでください。神を賞賛し、キリストが高められ、福音的で、人々を助ける行為で、あなたのくつろぎの時間よりも子どもの利益を考えてください。

他人をより重要なものと扱うこと

この過激な生き方への鍵のうちの1つは3節の後半にあります。「何事も競争心またはうぬぼれからしないようにしなさい。逆に、謙遜な心で、他の人をあなた自身より大切なものをみなしなさい」（ピリピ2:3）。古き良きキング・ジェームズ訳を使うなら「各自、他の人を自分自身より尊重しなさい。」となります。私は、これは中学3年生のときには不可能であったと思っていたことを覚えています。私の姉は私よりも10倍は早く読むことができました。少なくとも私にはそう思えました。私は、彼女が一晩で150ページはあるボブシーツインの小説（アメリカの子供用長期編小説のひとつ）を読むことができたので驚嘆してました。私は彼女が読書において私をより尊敬することができるとはとても思えませんでした。しかし、彼女が大変な思いをした代数のクラスで、私はA（アメリカでは成績を最高のAから落第のFでつける）を得ました。私が代数に関して彼女を私より尊敬することは到底できませんでした。

しかし、私は重要な点を逃したのです。その重要な点とは他の人がどうあるかではありませんでした。そうではなく、あなたが他の人をどう見なすかです。そしてフォーカスは、読書の速さや数学の成績やあるいは他の特技や特性におかれるべきではないのです。他人をあなたの助けや応援をうけるにふさわしいものと、価値あるものとしてみなすことができるか、それが私たちのフォーカスであるべきです。彼らに実際価値があるかないかではありません。価値あるものとしてみなせますか？私は姉に仕えることができるでしょうか。私は単に自分の関心だけではなく、彼女の関心をも考えることができるでしょうか。私には彼女を激励し、助けて、かつ成功するために時間をとれるでしょうか？私は家の車庫の周りで遊んでいないで、彼女への関心を示すことができるでしょうか？

謙遜とその源である十字架

では、その他人を優先するような考えはどこから来たのでしょうか？3節にはこう書いてあります。「へりくだって、他人をあなた方自身より重要なものとみなしなさい。」それは謙遜から来ます。原文を文字通りにとると「下である状態」です。これは権利主張の正反対です。謙遜は「あなたは私に借りがあります。」ということの反対です。パウロは言いました、「私はギリシア人、

および異邦人の両方の、賢い人と愚かな者との両方の恩義のもとにいます。([ローマ人1:14](#))。言いかえれば、彼らはパウロに借りがなかったのです。パウロが彼らに対して借りを作っていたと言うのです。

なぜでしょう？なぜクリスチャンは人に貸しがあるとは思わないで、逆に人々に借りがあるかのようなへりくだった感覚で日々の生活を歩むべきなのでしょう？その答えは、私たちに何の借りもなかったキリストが、私たちを愛し、私たちのために死なれ、私たちを赦され、受け入れ、義とみなし、永遠のいのちを賜り、この世の相続人となさったからです。私たちには、キリストに仕えていただく価値などまったくなかったのに、あたかもそうであるかのようにキリストは私たちに仕えてくださいました。彼は自分自身の利益だけではなく、私たちのことに対しても深く関心を示してくださいました。彼は、彼自身よりも私たちのほうが偉大なものとみなしてくださいました。キリストは言われました。「食事の席に着く人と給仕する者と、どちらが偉いですか？食事の席に着く人ではありませんか。だが、私はあなたがたの中であって、仕えるものです。(ルカ22:27)」

ここから、私たちの謙遜は生れるのです。私たちは神の恵に圧倒されます。：十字架による達成された過去の恵、およびそのときそのときに与えられる恵は、永遠に続く未来を約束します。クリスチャンは圧倒されたかのように謙遜な性質へと導かれます。キリストは自由意志であなたに仕えました。わたしたちもそれに見習わないとなりません。

したがって、私たちの教会のリレーショナルカルチャーの重要な鍵はピリピ2:4 であるべきです。「各自、自分の利益だけでなく他の人の利益のことにも注意を払うべきです。」これこそが、私たちの生活の中で共に所有しなければならない、考え、もしくは心のあり方なのです。これこそが、「この世界で生きる」という非常に困惑する労働のために神が知恵をお与えになるリレーショナルな環境なのです。

イエスの思いが表れるの4人の例

さて、ここであげられるイエスの考えを4人の例を通して少し見てみましょう。いまは少し見るだけで、後に、この1節(ピリピ2:4)に注目して時間をかけて一章全体を読んでみてください。それにより、この一節が、パウロがここで4回にもわたって説明しようとしたほどの彼の目的の中心であるということを読み取れることでしょう。

1. イエス

四人の例の一番目はイエス御自身です。5-9節

キリスト・イエスによりあなたが所有することになった、この考え方(すなわち、ピリピ2:4に表されている考え方)をあなたの方の間でもいつも持っているようにしなさい。そのキリストは、神の形を持っておられ、神と同等であるという事実にはすがらなければならないとはみなさず(直訳:同等であると「数える」)、逆に自分自身を無にして(直訳:自身を空として)、仕える者す

なわち他人の目的のために生きる者の形を取り、人間の姿となり生れたのです。そして人間の形をとり生れたことにより従順を通してへりくだりを示し(自分に与えられたすべての正当な権利を捨て)死ぬことすら、たとえそれが十字架上の死であっても従ったのです。

あなたがもし、へりくだること、自制すること、または愛するのが難しい人々に仕えることに常に困難を感じるなら、この箇所のキリストを想像し描いてください。これは彼があなたのために行ったことです。彼自身が4節で言われることの偉大な例です：「各自、自分の利益だけでなく他の人の利益のことにも注意を払うべきです。」これこそが、キリストがあなたの代わりに死ぬために来られた時に、彼が行ったことです。

九節から11節は、自分を無にし、死に至るまで仕える者であったことに対する最高の栄誉を与えられたことがはっきりと書いてあります。「それゆえに、神はイエスを高くあげ、彼の上にすべての名よりも優れた名を与えたのです。それにより、天においても地においても、そして地の下においても、イエスの名のもとですべてのひざがかがめられ、すべての唇がイエスキリストが主であると告白し、父なる神に栄光を帰すためです。(ピリピ2：9-11) そしてこれはあなたにも同様に当てはまります。「誰でも自分を低くするものは高められるのです。(マタイ23：12)

2. パウロ

二人目は著者パウロ自身の例です。17-18節

たとえ私が、あなたがたの信仰の犠牲のささげものの上に私の血を神酒として注がれることになっても、私はそれを嬉しく思い、あなた方全員と共に喜びます。同様に、あなたがたも私と嬉しさを共にし、喜ぶべきです。

パウロはピリピのこの教会を愛していました。彼はすべての教会を愛していたのです。また、彼は毎日それらの教会に仕えるために自分に死にました。「私は毎日死にます！」(第一コリント15：31) パウロは自分の生活を、彼らの信仰のための犠牲の上に注がれる杯の供え物と比べました。言いかえれば、パウロは彼自身のみ利益には時間を費やさなかったのです。彼は彼らの信仰を思い、何度となく自分を否定して、最終的には彼らの信仰が強くなるために自分のいのちを投げ出すことすら望んだのです。

3. テモテ

三人目はテモテです。19節から22節までで、パウロがテモテとその他の人たちとをどのように比べているか気をつけて読んでください。ここでの言葉の言い回しは2章4節を明示的に表しています。

主イエスにあって、すぐにあなたのところにテモテを送りたいと望んでいます。そうして、あなたがたの知らせによってこの私も元気付けられるためです。彼のように、真実をもってあなたがたの人生を(文字通り訳すと「あなたがたの利益、あなたがたのもろもろの事柄を)心配してくれるであろうひと人は誰もいません。人はみな自分の利益を(4節で使われた言葉と同一)求め、

イエス・キリストの利益を求めません。しかし、すでに立証されたテモテの価値、息子が父に仕えるようにして福音のために彼が私に仕えたことは、あなたがたはみな知っています。

自分の利益だけではなく、他人の利益も考えるというこのキリストの考え方が、パウロがここで経験しているほど珍しいことでないようにと私がいかに切に祈っていることでしょう。「人はみな自分の利益を追い求める…（中略）…テモテのような人は他にいません。」などとパウロに言われなかったために。みなさん、心の底からこのために一緒に祈ってくださいますか？神の霊の力によってここでパウロがテモテに見出したようなものを私達が祈り求めていけるように。是非このことを私たちの教会のリレーショナルカルチャーのモットーとして行きましょう。

4. エパフロデタス

最後にエパフロデタスの例です。25節から30節

私の兄弟であり同労者、そして戦友、またあなたがたへの使者であるとともに私の必要を補ってくれたエパフロデタスをあなたがたのところへ送る必要があると思いました。というのは、彼はあなた方一同と会うことを熱望し、彼が病気であるとあなたが聞いたと知って苦しんでいます。[「彼らの」思いがここでいかにエパフロデタスにとって重要であるか気づいてください。彼は自分が病気だったから苦しんでいたのではありません。また、時々私達が病気のとときに他の人にそのことを知ってもらいたいかのごとく、彼が病気だったことをピリピの教会の人が知らなかったから苦しんだのでもありません。エパフロデタスは、彼が病気であるとピリピの教会の人たちが知ってしまったので、苦しんだのです！「心配しすぎないだろうか？もしかして自分が死んでしまったと思っているだろうか？」エパフロデタスの心にあったのは常に「彼ら」がどう思っているかでした。] 実際彼はひん死の病気でした。しかし神は彼をあわれんでくださった。彼だけではなくこの私（パウロ）をもあわれんでくださったのです。わたしの悲しみがさらにまさないようにと。ですから、主に会ってすべての喜びをもって彼を受け入れてください。そして彼のような人を敬ってください。なぜなら彼は、私に対してあなたがたが不足していた奉仕を補おうと彼のいのちをかけ、キリストのわざのために死ぬほどの思いをしたからです。

他人の利益を心に留める美德

さて、私がそうなりたいと、そして私たちの教会がそのようになってもらいたいと深く望んでいることの4つの実例を見てもらいました。「キリストの思い（心）」と呼んでください。それを「2章4節の要因」（ピリピ2：4）と呼んでください。あなたが何と呼んでもかまいません。とにかくそれは美しいのです。

キリストが、自分の地上での快樂よりも私たちに関心を置き、
私たちのために死んでくださったのは美しかった。

パウロが、私たち福音を伝えるための教会を築くために
毎日苦しんだのは美しかった。

テモテが、他人の利益を第一にして
パウロと共に仕えたのは美しかった。

エパフロデタスが、パウロに対してのピリピ人の貢献を全うするために
自分のいのちをかけたのは美しかった。

また、それはあなたの個人の優先事項、家庭、政治に対する感心において、神が神の知恵を私たちの中で見せてくださり、キリストの思いが生き生きとしたら、それは美しいことでしょう。

主よ、キリストのゆえにそれをなさってください。アーメン

翻訳 愛咲えみ